平成16年11月26日

甲府中学・甲府一高
東京同窓会会員 各位

一紅会会長　飯田冨美子
(33年卒)

一紅会 主催

第8回「新春講演会」開催のご案内

初冬のみぎり　皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃は 一紅会にご理解とご支援を賜り、ありがたく厚くお礼を申し上げます。

さて、別紙ちらしでご案内の通り、新春講演会を来春2月5日に開催いたしますので、ぜひ大勢の皆様にご参加いただきたくお願い申し上げます。

甲府一高を卒業した女性ネットワーク「一紅会」も創立から7年を経て、お陰様で同窓会活動への参画も確かなものとなりました。特に新春講演会は、回を重ねるごとに参加者も増えて、“来年を楽しみにしていますよ”とのお声を戴き、私どもも大変嬉しく思っております。

今回は、作家の渡辺房男氏が『幕末維新への旅』をお話してくださいます。

日本各地への取材旅行を重ねながら、歴史経済小説という独自なジャンルでご活躍されている渡辺氏が、私達をどんな「旅」へ いざなって下さるのでしょうか？　私も今から大変楽しみにしています。

皆様のお力添えを得まして恒例になりました新春講演会が、これからも「同窓文化」の基点として、一層発展する事を念願しております。

どうぞ皆様お誘いあわせの上、ご参加下さいますよう心からお待ち申し上げております。

第8回新春講演会プロジェクトチーム

井上若子(30)　若尾和子(32)　村野久子(34)　矢口百合子(38)　梅澤梅子(38)
小林牧子(39)　宇野由美子(40)　宇野文子(42)　正木和枝(42)　桑江彰子(42)
竹中みゆき(43)　野沢春海(43)　小川早苗(47)　杉本光子(49)　荒井美津子(50)

(　)内は卒業年次

第8回「一紅会」主催
新春講演会

幕末維新への旅
～私の歴史小説～

講師　作家　**渡辺 房男 氏**

渡辺　房男　●プロフィール　近影

昭和19年、甲府市生まれ。
昭和43年東大仏文科卒。NHKディレクターを経て、現在NHKエンタープライズ21プロデューサー。
東京都世田谷区大蔵5丁目在住。

受賞関連　平成11年　第23回「歴史文学賞」
平成11年　第18回「世田谷文学賞」
平成13年　第13回「中村星湖文学賞」

主要著書　平成11年　「桜田門外十万坪」(新人物往来社)
平成12年　「ゲルマン紙幣一億円」(講談社)
平成13年　「金目銀目五万両」(新人物往来社)
平成15年　「われ沽券にかかわらず」(講談社)
平成16年　「インサイダー」(幻冬舎)

幕末維新の激動期、全国各地でどのような動きがあったでしょうか。取材の一環として、その足跡を訪ねる旅を続けて11年になります。現地に佇むことでしか味わうことのできない歴史の息遣いをお伝えしたいと思っています。

また、これから旅を計画される皆さんへの歴史散策ガイドとしてお役に立てれば幸いです。

(講師のメッセージから)

渡辺房男氏（昭和38年卒）は、平成11年に第23回歴史文学賞を受賞されて以来、幕末から明治にかけての経済と社会をテーマとして旺盛な創作活動をされています。5冊目の刊行となる近著『インサイダー』では、「大正バブル期の株取引を題材に、人間の欲望とロマンという普遍的なテーマを見事に表現している」と高い評価を得ています。

いつの時代でも変わらぬドラマチックな人間模様・・・。

氏のお話は、幕末維新という時代への新鮮なイメージを呼び起こしてくれることでしょう。

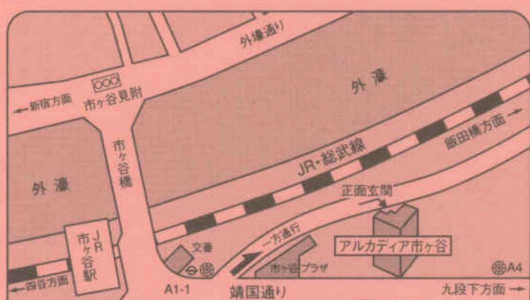
講演の後は、講師とご一緒にパーティでお楽しみください。

《日　時》
平成17年2月5日(土) 13:00～16:00 (12:30 開場)

《会　費》
4,000円 懇親会(ロリポップ・パーティ)費を含む
＊飲み物、軽食を用意しております

《会　場》
アルカディア市ヶ谷（私学会館）
千代田区九段北 4-2-25 (右記の地図参照)
TEL. 03-3261-9921 (代)

出席・欠席のお返事は **12月20日** までに同封ハガキにてお願い致します



営団地下鉄　有楽町線・南北線　市ヶ谷駅(A1-1)出口から徒歩2分
都営地下鉄　新宿線　市ヶ谷駅(A1-1, A4)出口から徒歩2分
JR市ヶ谷駅から徒歩2分

２００５・２．５

講演要旨

「幕末維新への旅」－わたしの歴史小説－

渡辺房男

日本の最大の歴史の転換期、それは、幕末から維新への時代である。武士も町人も、そして農民も、その大きな時代の激動期にどう生き抜いたのか・・・それが、わたしの大きな関心事であり、いままで、そのテーマを追って書き続けてきた。

その素材は、無論、歴史書や歴史資料から得られることが多いが、わたしには、もうひとつの資料発掘の楽しみがある。

それは、もう１１年にもなる歴史散策「幕末維新への旅」である。

夏の休暇を利用し、各地の温泉めぐりもかねての小旅行ともいえよう。

弘前を皮切りに、すでに、九州、四国、中国、関西、北陸から、東北、北海道へと足をのばしている。

この旅には、桂小五郎、西郷隆盛、大隈重信ら幕末の倒幕志士たちの生まれ故郷を訪ねる楽しみがある。しかし、それ以上に、廃藩置県で消滅した２６０あまりの藩が、藩主と藩士、それに庶民をも巻き込んで、幕末維新の激動期にどう対処し、どう決断したか探ることも興味深いものだ。

わたしの旅は、そうした無名の人々が必死に生き抜こうとした幕末維新期に焦点を当てたものである。

本日のテーマは、「幕末維新への旅」・・・。

１１年に及ぶ旅で訪れた江差、函館、盛岡、仙台、二本松、越後村上、姫路、佐賀、長崎などの町で、わたしが何を発見し、何を小説の世界へと昇華させようとしたか、興味あるエピソードの数々をお伝えしたい。

この「私製・幕末維新への旅」の話から、現地に佇むことでしか味わえない生き生きとした歴史の息遣いを感じ取っていただけたらと思う。

また、これから旅を計画されている皆さんへのミニ歴史散策ガイドとして、参考になれば幸いである。

わたしの旅

番外　１９９３年　　津軽の旅　　弘前、金木町、青森

①　１９９４年　山陰の旅―松江、出雲、萩、下関
（松江藩、長州藩）

②　１９９５年　四国の旅―高知、宇和島、松山
（坂本竜馬、伊達宗城とサトー、坂の上の雲と松山）

③　１９９６年　九州の旅　①―熊本、佐賀、長崎、五島、福岡
（神風連の悲劇、佐賀の乱、開港地長崎と五島の坂本竜馬の碑、
福岡藩の贋札作り）

④　１９９７年　九州の旅　②―鹿児島、中津、臼杵、大分）
（鹿児島私学校、乗り遅れた維新時の諸藩）

⑤　１９９８年　北陸の旅―彦根、長浜、福井
（井伊家の決断、真宗の力、橋本佐内と春嶽）

⑥　１９９９年　北海道　戊辰戦争行脚―江差、松前、函館
（江差の開陽丸と五稜郭）

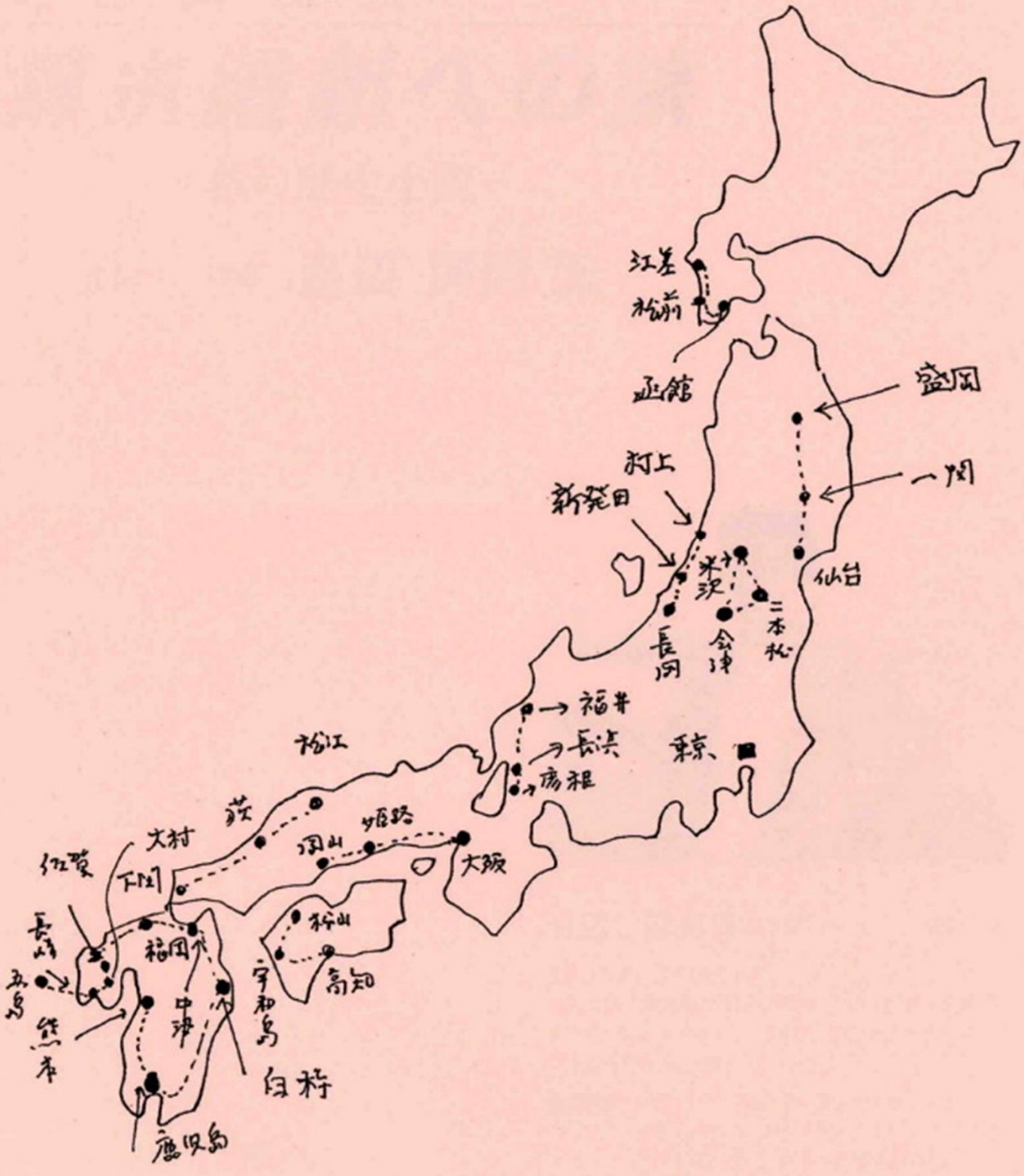
⑦　２０００年　九州の旅　③―佐賀、大村、長崎
（大隈重信と佐賀・長崎、大村勤皇３７士）

⑧　２００１年　山陽道の旅―岡山、姫路、大阪
（姫路藩の抗争、造幣局）

⑨　２００２年　南東北の旅　戊辰戦争（奥羽越列藩同盟１）
―米沢、二本松、会津、
（二本松少年隊、会津戦争）

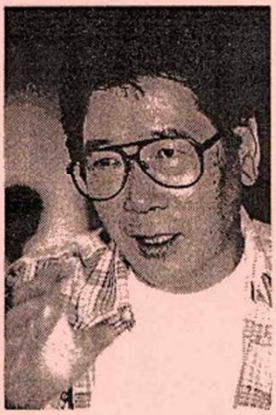
⑩　２００３年　越後の旅　　戊辰戦争（奥羽越列藩同盟２）
―村上、新発田、長岡
（ある家老の死、裏切りの藩、焦土の長岡）

⑪　２００４年　西東北の旅　戊辰戦争（奥羽越列藩同盟３）
―仙台、一関、平泉、盛岡
（西南戦争と会津、古切支丹、楢山佐渡）


江差
松前
函館
盛岡
一関
村上
新発田
米沢
仙台
二本松
会津
長岡
福井
長浜
東京
彦根
松江
萩
姫路
岡山
大阪
大村
佐賀
下関
長崎
福岡
五島
熊本
中津
宇和島
松山
高知
白杵
鹿児島

インサイダー

著者 渡辺房男さん



歴史の歯車は経済が動かす

「歴史マネー小説」という独自ジャンルを突き進む。デビュー作『桜田門外十万坪』で土地を、『ゲルマン紙幣一億円』では金を、そして5作目の本書では、大正時代の株取引を通しての人間模様をドラマチックに描いた。

第一次世界大戦下の好景気で株価が急騰し、仲買人による不正が横行していた大正6（1917）年、警視庁初の株式犯罪捜査官の木谷は、ある男の水死体に注目する。株で失敗し大金を失ったという事実をつかんだ木谷は、事件の背後に非合法に大金を稼ぐ組織があることを知る。法整備に燃える検事とともに、捜査を開始するが……。

「歴史の歯車は経済だと思うんです。スローガンだけで動くとは思えない。大正バブル期は、株による成金が生まれた時代。資料をあたると、浜松で教師が株でクビになっていたり、昭和初期に検事が警鐘論文を書いたりしている。欲にからんだドラマやロマンが見て取れた。これは小説になると思いました」

NHKのディレクターとして、歴史ドキュメントを制作している中で、「こうした歴史を舞台に、フィクションとして自由に人間を動かしてみたい」と思うようになり、40代で執筆開始。99年のデビュー作は第23回歴史文学賞を受賞。現在も、関連会社のプロデューサーを務めながら、小説を書き続けている。

「いつの世も人間の欲は変わらない。庶民が株で一喜一憂し、政治家がインサイダー取引で摘発されるなど、当時も今も同じ。ただ人々の活気が違う。言葉は悪いけれど、当時は悪い連中も、右翼も左翼もみんな元気だった」

物語は、株価操作集団のフィクサーや大物仲買人へと捜査の手がのびる中、原敬首相が暗殺される大正10（1921）年11月4日の朝に、クライマックスを迎える。

「あの時代は、昭和の暗い時代に突き進んでいく直前。きな臭さを感じる現在と似ている気がします」

甲府市生まれの60歳。

「紙に書かれた歴史ではなく、人々の感情を吹き込みながら、これからも書いていきたい」

文・木村知勇

写真・藤原亜希

（『インサイダー』は幻冬舎・1890円）

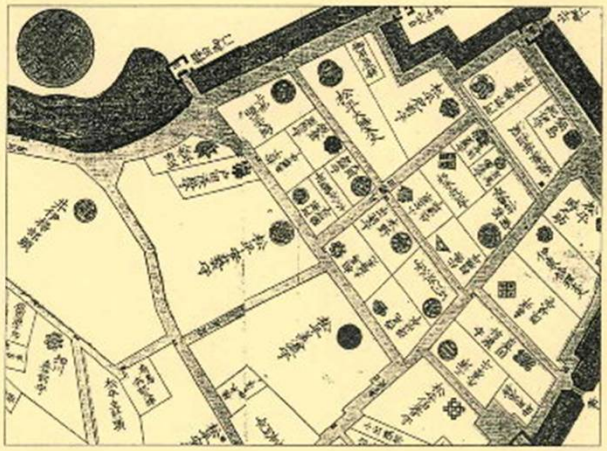
東京絵図（とうけいひず）

西南の役異聞

2月下旬刊

渡辺房男（わたなべふさお）

血塗られた一枚の東京実測図――。
一枚の地図に秘められた西郷挙兵の裏工作とは…。



維新の激流に翻弄される「江戸切り絵図」の絵師であった元松江藩士の生きざまと、明治激動の時代をミステリータッチで描く気鋭の書き下ろし長編力作！

江戸切り絵図が明治初年に姿を消し、近代国家建設という時代の要請とともに東京の地図は三角測量を主体にした正確無比な実測図へと移り変わっていく。

その変遷の中に、どのような歴史的エピソードが秘められていたか…。

また、江戸切り絵図を一心不乱に描き、彫り、刷った人々は維新という激動期にどのような生き方を選び取ったのか…。

この小説は、座右にある尾張屋版江戸切り絵図への深い愛着から生まれた、わたしなりの「維新歴史地図」と言えるかもしれない。

（「あとがき」より）

・四六判上製
・本体一九〇〇円＋税

新人物往来社
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル
電話03(3292)3931 FAX03(3292)3932

渡辺房男の好評既刊！

桜田門外十万坪　・本体一八〇〇円＋税

金目銀目五万両　・本体一八〇〇円＋税

SUNDAY NIKKEI α

あとがきのあと

「円を創った男」　渡辺　房男氏

大隈重信の経済感覚、痛快に

「歴史の基本はカネ。経済が歴史の歯車を動かしている」。デビュー作の「桜田門外十万坪」（歴史文学賞）以来、一貫して経済をテーマに歴史小説を発表し続けているのは、その信念からだ。

七作目の本作で取り上げたのは「円」。佐賀藩士から明治新政府の大蔵大臣にまで上り詰める若き大隈重信を主人公に、日本の統一通貨がいかに生み出されたかを、近代国家誕生前夜の群像劇の中にあぶり出す。

勤皇の志士ながら重信は遠い長崎で幕末を迎える。だが藩の物産を西洋人に売りさばく仕事を通し、生きた経済を身内に深く取り込んでいく。やがて新政府の表舞台に出て、薩長出身でない不利をはねのけて出世するのも、その抜群の経済感覚があったからだ。「結果的に混乱期に京都にいなくてよかった。長崎での経験があったから武士が刀を差して闊歩する古い時代の終焉を予感できた」

様々な財政問題や対外問題に才能を発揮しながら、諸外国に日本を近代国家と認めさせるには統一通貨の発行が不可欠との確信を抱く。だが、いざその重責を担うや、悪貨やにせ札の横行、新造幣所の火事、貨幣本位を金銀いずれにするかなど未知の問題に次々と直面する。それらを乗り越え、徐々に「円」が形になる過程が本書の読みどころだ。

切ったはったの場面こそないが、才覚と弁論を武器に論敵をなぎ倒し、道を開いていく重信の姿は痛快だ。

「自分が為すことが何になるのかわからない時代の為政者が、日本の混乱を待ちかまえる列強に抗し、軍事力ではなく経済で認知させようとした。その苦しみを描きたかった」という。

映像畑出身だが、歴史好きの常として、渡辺氏も活字好きだ。「歴史観をひっくり返すたった一行を見つけると胸がときめく」とか。「その一行から想像が広がる世界を描いていきたい」。

（文芸春秋・一、九〇〇円）

（わたなべ・ふさお）　1944年生まれ。NHKディレクターをへてNHKエンタープライズ・プロデューサー。99年作家デビュー。著書に『われ沽券にかかわらず』など。

第8回新春講演会　出席者　一覧表　　2005年2月5日

卒年度	氏　　名						人数
S　9	白倉　一郎						1名
S　11	新津　成美						1名
S　18	渡辺　喜一						1名
S　23	秋山　哲郎						1名
S　27	恩田　宗						1名
S　28	長坂　寛	大森　潤之助	尾辻　紀子	渡辺　圭子	河野もと子		5名
S　29	越智　幸子	菊池　雅子	雨宮　弘子	金丸　則子	三枝　豊子	戸田　房子	
	阿部　和美	牧野　満	宮崎　恵子	小泉　敦夫	斉藤　好司	松田　泉	12名
S　30	鮎川ますみ	井上　若子	近藤　文子	塩瀬　昭子	田上百合子	高橋ふく子	
	堤　千恵子	轟　佐知子	長島　歌子	生原　恵子	堀内　綾子	八木原順子	
	伊藤　栄造	長田　康正	神田　四郎	小泉　順治	翼　一恒	田村　公	
	武井　篤夫	深沢　士郎	松尾　守	松野　春樹	森澤　正好	矢崎　仁一	
	山田　初子	古屋　勉					26名
S　31	井上　幸彦	石井　澄夫	平賀　一郎	川崎　正	岩本　福喜	内本　紀美	
	名取　正	浅川　治男	芦沢　修二				9名
S　32	小泉　栄	有満　功子	渡辺　喜彦	若尾　和子	田中　博久		5名
S　33	飯田冨美子	有泉　清美	三澤千鶴子	師岡　庄子	小野　光示	堀口　孝雄	
	林　睦生	早川　圭蔵	河内　一郎	酒井　忠弘	斎藤由美子	田中　一昭	12名
S　34	伊藤　昭	内藤　勲	森田　茂	南　真紀子	斉藤　峰子	村野　久子	
	中村　禮子	金森　静子					8名
S　35	作道　恒	佐々木　真	古明地昭雄	田中　友昭	江口　嘉郎	八代　謹蔵	
	海野　勝	渡井　富雄	望月　公子	金丸　忠敬	吉村　公雄	三神　國隆	12名
S　36	前馬美代子	末木　隆夫	久保田　一二	中村　敏男	太田東洋男	伊東　敬子	
	田中　雅子						7名
S　37	廣池　哲夫	川島　民子	黒田　順子	小松　寿恵	菅原　嘉子	土屋　正樹	
	矢崎　武雄	向山南海子					8名
S　38	市橋金之助	大村紘一郎	渡邉　一由	北村　清巳	武内　紘司	武田　信義	
	長沼　真	広瀬　修二	堀内　高	矢野　峻行	山田　常夫	会田　洋子	
	雨宮由里子	臼田　恵	梅沢　梅子	高橋　繁	新海　行子	鈴木　紀子	
	中野　千磨	三川　和子	矢口百合子	西川　和宏	和久　章子	鳥居　克彦	24名
S　39	宮川　洪太	丸茂　和子	森泉　弘子	斎藤美都子	小林　牧子	飯島善一郎	
	笠井　収	上田　修					8名
S　40	今井　實	飯野　文吾	小川　健	佐藤　達夫	茂手木光博	鈴木　勝典	
	樋川　俊夫	水谷　康志	若木　敏彦	藤巻　芳彦	雨宮　喬子	磯田　春江	
	宇野由美子	深沢　保子	藤崎百合子	山縣　萩江	水谷　園江	中島公一郎	
	佐々木　仁	成澤　武四					20名
S　41	井上　喜由	内藤　浩	山本　秀彦	手塚　彰夫	小林ゆかり	小針　直美	
	高木　悦子	内藤　茂好	松岡　啓子	関岡美佐子			10名
S　42	八田　政恭	川野　昭雄	伊藤　志郎	岡崎千賀子	実藤まゆみ	斉藤千恵子	
	桑江　彰子	細木　博雄	正木　和枝	辻　敏子	古川　啓子	荻原　正	
	大原　久宣	龍野　克枝	宮野　幸恵	渡辺　緑	横澤　良次	塚脇　一帆	
	久保田三郎	伏見　和史	佐野　高志	宇野　文子	小倉　英雄	大芝　芳郎	
	八巻　珍男	中嶌　賢一	吉田美世子				27名
S　43	池田　秀雄	大野　陽造	古屋　史夫	古屋　正博	清水　純子	野沢　春海	
	竹中みゆき	前田　健	沓沢　初美	笹本　陽子	加藤まゆみ		11名
S　44	三田富貴子	杉本　恭子	峯川　文江	清水　昭			4名
S　45	百瀬　良彦	山下　昌彦	飯島　康二	藤田えり子	佐々木まち子	設楽　久敬	
	滝田和彦						7名
S　47	小川　早苗	河野美沙子	山田　陽子	嶋田　朋子			4名
S　48	辻　恵美子	坡場美代子	上松　増美	小澤　恭子	武井ちあき	林野　妙子	

	中川　英子	八田　政仁	雨宮　年江	石原　三義	鈴木 孝男	村松 泳勲	
	雨宮 昭彦						13名
S　49	杉本　光子						1名
S　50	軽石　泰孝	田中　慶子	菅原　一恵	田中与志子	渡辺みどり	斎木　裕子	
	八木下信子						7名
S　51	望月　裕子	渡辺ひろ子	谷口由美子	海沼 弘忠	羽田 忠生	武藤 公明	
	南波喜久美						7名
S　52	成島　和仁	矢野　秀樹	吉川　文代	大内とし子	藤田　早苗	中山　初美	
	伊藤由佳美	佐藤 守					8名
S　56	神谷ひとみ	鷹野　由香	大塚　誠				3名
H 6	望月幸一						1名
					(2005/2/5)	合計	264名